

## 意見陳述

私はこの平尾で生活し35年ほどになります。子供は四人おります。

すべて平尾小学校に通いました。平尾小学校に関わった期間は14年ほどです。

学校と公民館の隣に居を構えておりますし、PTAをはじめ地域の活動に関わることは、私の生活の一部となっております。

平尾小は、当初1学年2クラスに満たない小さな学校でしたが、学校の足りない予算をバザーで補い子供たちの音楽発表会の資金としたり、平尾音頭を作り夏祭りで卒業生を呼び戻し、学校と地域との連携が子供やこの地を育ってていきました。そして現在は、1学年7クラスの人気校区となっております。

そんな私の平尾で、共に歩んできた平尾小学校の工事が私の生活を脅かす事になるとは、微塵にも想像していませんでした。

何の説明もなく、突然始まった工事の影響で、ヒビ割れて穴の空く庭や壁、閉まらない窓やドア、汚水漏れ等、二軒の家は日に日に傾いていきました。

忙しく市の担当者が変わるたびに、何度も家の被害状態を説明し、家は大丈夫なのかと確認しましたが、

『すみません、家は全部もとに戻します』

と、そのたびに言われました。

「教育委員会が約束してくれたから大丈夫だ。きっと元に戻してくれるのだ、その日まで我慢しよう子供たちのために。」

それが私の心の支えとなりました。

被害が甚大になる中、事件に詳しい友人から、工事差し止めの助言を頂きました。

しかし、狭く熱いプレハブで暮らしている子供たちを見ていましたし、知人の子供さんやお孫さんが通う中、一日も早く新校舎が出来る願いは、子を持つ親として痛いほど理解できましたので、

教育委員会の約束した『元に戻す』という言葉信じ、工事の差し止めは見送ることにしました。

今となっては後悔していますが、その当時は教育委員会が嘘をつくことはないだろうと、うっかりその言葉を信じてしまいました。

30年近く、この地域で続けた活動も、今となっては私の人生で何の意味があったのかと思っています。

以前より頂いていた民生委員のお話も断り地域活動は全てやめました。空しくなったからです。

平尾小学校の児童は、自分たちの学校工事のために壊れた塀を横目に学校へ通っています。  
通学路沿いに私共の家があるからです。

子供たちは、この被害の末に学校が出来上がったと教わるのでしょうか？

あの家の人のせいで工事が遅れたと教わるのでしょうか？

学校は、教育委員会はどうか子供たちに教育するのでしょうか？

私の今まで大好きだった地域と教育への思いは、  
もう二度と思い出したくない不幸な思い出になりました。

また隣の貸家の土地には、市の建造物がはみだしており、  
何度話してもこれに関して回答をくれませんでした。

やっと来た回答書には、この建造物を壊すのには市の許可があると書いてありました。  
工事のための境界線立ち合いも、こちらから依頼するまでは行われなかったうえに、  
境界票も壊され、勝手にはみ出したものを建て、壊すのに市の許可がいるとは、  
その傲慢さは甚だしいと怒りを感じました。

そして隣の貸家は、塀の崩壊と庭の陥没から賃貸がつかず、収入が滞りました。  
子供の学費の予定にしておりましたので、銀行より借り入れをおこないました。  
登記簿にのっています。私たちは、老後貸家の収入を頼りにしていましたし、  
売却後老後の資金にとの計画もありました。

この二軒は土地自体が沈下しているために資産価値も落ち、  
私共の会社経営のために使う担保としても瑕疵物件として価値が下落しております。  
自宅の基礎石は地盤が沈下し、何か所も三センチ近く浮いてしまっています。  
地盤沈下のため污水管の勾配がなくなり、污水が逆流し漏れが生じ、軒下には汚物がたまります。  
現在は、污水管の外付け工事をし、生活しています。

しかし、地盤修復費用は、市の提示金額に含まれていません。

工事で起きた地盤沈下の地盤修復費用は私共で用立てるのでしょうか？

教育委員会が私共に伝えた『元に戻す』という約束通り、土地も元に戻してほしいと思います。  
当然侵入した土地も返して欲しく思います。

教育委員会とは何なのでしょうか？

学校施設の工事担当であっても、教育委員会の名を名乗る以上は、  
地域、学校教育に関わっている教育者としての責任と自負を持つ人々であると信じていました。

工事ありきで、およその弁償金を計画の時点で予算にいれ、  
強引に民間人を騙すような工事が成り立っています。

また、教育委員会との協議中、福岡市教育委員会教育環境部部長西村孝志氏と部下2名が市委託業者  
の調査会社である株式会社アルファテックと

私共の個人的に依頼した別調査会社に勝手に出向き調査の内容を聞き出し、  
市の主張に沿った調査内容を書く様に依頼したという問題がありました。

私共の調査会社の担当者が守秘義務・競業違反にあたるかもしれないと恐れ、そのことを私共に告白  
しにきました。

その担当者はその出来事によって左遷されました。

この方も行政を信じた被害者の一人だと思います。

この出来事については調査会社からも念書と報告書で頂いています。

西村氏は市の代表として私共と協議している方だったので、このような行為にでるのは予想外であり、  
信頼関係を完全に破壊するような行為だと思います。

民間の工事なら、私共の様な被害は未然に防げて誠実に対応できたと思います。

一般社会はこの様な一方的な力関係ではなく、信用で成り立っているからです。

トラブルの相手が行政であることの民間人のプレッシャーは大変なものです。

私共には、ここまで沢山の支えがありました。感謝に堪えません。

数日前、友人より高級ホテルの会員制スポーツクラブにて、

ジャグジーでくつろぐ高島市長をみかけたという連絡がありました。

私共は日々傾いていく家の中でまともな生活もままならないのに、

優雅に過ごしている市長の話に私共の声が届いてるのか悲しくなりました。

行政との訴訟が一般的に泣き寝入りだという事も知りつつ、老後の夢の破滅と、

今までの私の地域で生きた人生の意味も含めて、戦う所存しております。

私共と同じ被害が増えないことを願っております。

そして、当初の約束通り家を元にもどしてもらいたい。

どうぞ宜しくお願いいたします。